

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	市内主要古墳総合調査研究事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	生涯学習・スポーツ課		包含する細々目	1	10	5	3	10	6	0
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり											
施策	62 地域資源の資産化											
実施区分	18終了	会計	一般会計	環境調整会議		不要						
		事業期間	17	年度～	18	年度						
												文化財保護法・補助金交付規則・国宝重要文化財等保存整備費補助金・埋蔵文化財保存活用整備事業費・同実施要領・埋蔵文化財緊急調査費国庫補助要項・史跡等総合整備活用推進事業費国庫補助要項

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	前方後円墳をはじめとする、市内にある古墳	市内古墳数(基)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了とする	
			700			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	古墳に関する資料調査し、将来的な整備方針策定のための基礎資料を作成する。	史跡指定等活用すべきとした古墳数(基)	18目標	50	最終目標	18
			18実績	50	19目標	↑
			23目標		23実績	最終目標達成年度
			18目標		最終目標	
			18実績		19目標	↑
23目標				23実績	最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	市内には多数の古墳が存在し、古墳時代の当地方が馬生産により中央政権と深く結びついていたことが知られている。馬が当時の日本にとって政治・経済上重要なもので、市内の古墳のあり方は日本史上重要な位置づけにある。こうしたことから、古墳の実態を整理し、位置づけを明確にし、前方後円墳をはじめとする市内主要古墳の史跡指定・整備活用に向けての基礎資料を作成する。なお、文化庁から「飯田市の古墳は全国的にも重要な位置にある。前方後円墳をはじめとする主要古墳について体系付けて史跡指定し、保護策を講ずる必要がある。説明資料となる資料集の作成が急務で、合わせて学識者による指導委員会の設置を検討すべき。」との指導を受けている。また、注目されている当地方の古墳文化の内外への情報発信が可能となる。	・市内主要古墳(塚原古墳群他)関連の資料調査及び報告書の作成 ・指導委員会による検討会 ・飯田市の古墳文化の情報発信 - 関東甲信越静岡ブロック埋蔵文化財担当職員共同研修協議会の招聘・シンポジウムの開催 ・水佐代獅子塚古墳墳丘測量調査実施 ・石塚1号古墳墳丘測量調査実施	調査実施古墳数(基) 指導委員会の回数(回)	3 9 2

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金	1,000	0
	県支出金		
	起債		
	その他		
一般財源	1,003	0	
事業費計(A)	2,003	0	
人件費	正規職員所要時間	18年度 1,800	19年度
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	6,437	0
	トータルコストA+B	8,440	0

特定財源内訳や補足事項	国宝重要文化財等保存整備費補助金(国庫補助 文化庁)(50%) 埋蔵文化財保存活用整備事業費(国庫補助 文化庁)
-------------	---

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	価値が顕在化され高まる 認知される	活用できる状態の整った地域資産の数	現状値	436	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	520
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
文化庁から、塚原古墳群だけでなく飯田市内にある前方後円墳をはじめとする古墳全体の重要性が指摘され、適切な保護策を講ずる必要があるが、そのための全体像が把握できる基礎資料整備が急務との指導を受けた。	古墳の多くは個人所有となっており、周囲の開発が進むなか、適切な保護策がとれていない。約1500年を経ても伝えられてきた文化遺産が近年の社会情勢の変化により、開発・破壊の危機に直面している。	古墳の所在する地域ごとに史学会活動など文化財学習の場として活用され、重要性の認識度は高まりつつある。一方、より多くの市民に重要性の理解度を深める必要があるとの指摘も受けている。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)	
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がある (その理由)		発掘調査・分布調査等により、市内の古墳数の増減が生じる可能性がある。	廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		本事業の最終的な目的が今後の史跡指定・整備・保存活用についての基本的な方針策定であり、見直しの必要性はない。	他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		将来的な史跡指定・整備にかかわる事業であり、総合的に調査を進めていくためにも市の関与は必要である。	効果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)	

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 実施年度 18 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持 具体化	
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	市としての史跡指定・保護・活用についての基本方針の策定

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由	
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	重要な文化財である古墳について資源の資産化を図り、広く情報発信する。		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	